稚美詩國物語

播磨の巻中編上

天保辛丑
孟春發販

歌川國貞画

へ13
3760
7

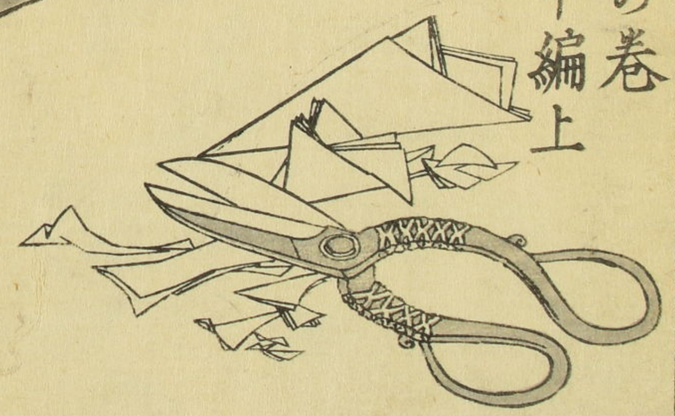
門 へ13
号 3760
巻 7

邯鄲諸國物語

種彦作
國貞画

播磨の巻
中編上

重帷子曰 九ふこッ引
なまへの浮紋つゝ白いろ菊



芳町親仁橋
榮久堂梓

邯鄲諸國物語中編

鎗の権三の名い昔の曲子ふゝえれどゝゞれの時代いづまの國の人
るゝを紡ゝむと門左衛つゞ著しゝ浄瑠璃重帷子いかの古き人
名を假借て雲州の街説と作りゝるゝり是ふ勢解ゝる話因
州丹州ゝも又ありそれ等の事を綴ゝ冊子の字ゞ眼ふれる
標題い下編の巻首ふ録ゝそのるゝふ記ゝる堀江川波鼓いるゝど
門左衛つ作ゝて因幡の巷説とおりゝるゝそのの諸国物語い原
来の空説るゝまバ私ふ播磨の事とゝ一おゝるゝ捨ゝふ茶道れ
偽受の一段のゝい重帷子をゝその伊ゝゆゝおゝるゝ自害い波鼓を
よゝゝどゝろゝゝゝその他い悉新ふ趣向をゝゝけゝゝゆゝ爲だゝり
も實の事いあゝゝぞ

天保辛丑正月

柳亭種彦記

新峯相記ハ曰

昔ハ上総の国
佐用郡ハ
ふるの
ふるとやさーき
あづの女ありけり
ある年の冬
雪いとく
ふりつもり
ふるさと
ふる
ふる
法師
ありけるを
ひのそれをやどして
雨ふれども春ハ
ふりあばをもきえず
それまちてやどさせ給へと

古書の峯相記とハ別本
ちく延室天和年間の
編なるべー

柳亭

此冊子の
説の
是非ハ
考べし
春哉村と
ハ此地ハ
今
佐用郡ハ
在

心ゆくばかりあるなーと時なれば
雑子の音づれるがかのそらー
深雪やも雑子ハそらくをうけふり
ふるとげんいいつも春哉

くて年かへりむ月十四日のあさ
はるばるきたるかの法師いらでまきり
あとをそきくふりの法師ハ
時頼禅門最明寺殿を
おそーくるとそそれとり
あてあくを
春哉の里と
名づけける
おの徳ハ
此里の雑子ハ
今ふりるまで雪の
中ゆもれるの声なると

つゞき そのきれあるいよふ
なやぎこうきうれのうわ
まるうくまきこれりそれ
よりヨ夜くろうしく
ゆうけんのいんぐやまうの
ぶんじくしくえきく
せいとをあるえうふ
つこへきてあるくるりのせんどをあるをあぐんごち
えこうのぞこふまうせこうつこうるうこれどる
これいこうこうるうこうるりとのつまう
ゞのめのをきうるをあいてのぞめ
ゝのあれいいにしてゝ五郎とたそ
ぶれいきりくるりのいるくい
そのゝるるゆるいいいとと
えでまとこのゝるのり
まうくこてもつき
きぬのとうこれい
びんこうちかどうき
ふりきのこをきくめ
うるこのあるくうこ郎いつぶあるふ
しのをきうこうえうちやうの兄ふこしうけ
てふありとうこぶるようこうあうせの犬むさる
びうゝし已めトのひてうこをうのてうぶ
おちうおそゝをいきトあゝなりしけ月ゝきこう
ふのくここれいけんいこまりありゞこきこふ
こそこそあまこてびりいこできく母ゆも
ゝこせてこーゝどー。これやそおりしいこて
うちこさかちいのこきやうをこくおうこひ
ゝきうことせこのこさゝこうこうこれ
るこれおりらひうけあてむーこと

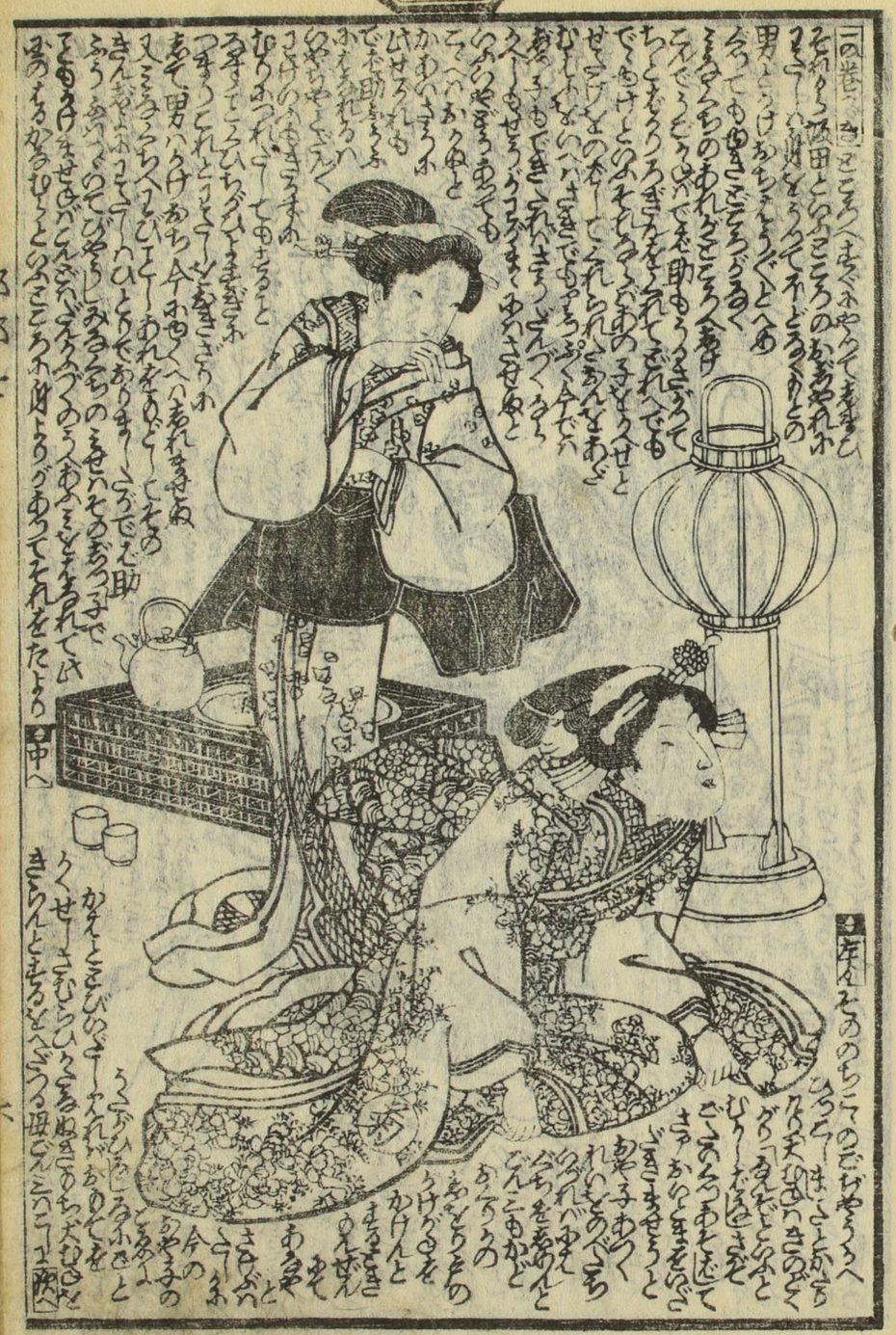
中へ

○此画い拵こゝひこらゞひきあり
そきてその衣のやうこのこさま
るりふーこくこい
ゝきあーこそこう

中へ

中へ ヤスういこさの
ぶこうこいあるこ
こさまでぶこうまきう
「のやのこうくも
つうひゞぶけのの
うちでいやうふ
ゝきこそれうこふ
けこちうちきうを
うくこいこそこのつれ
あひうことありふ
こいかこうを
こうり「ゝくく
おれゞもう
母いこくふ
こそまこと
の母で
ごぎう
ますかの
でお助の
こうふい
せそゆこうこ
ゆくうくゆくこれる
のでやうくあくれん
ゝうきーてこけふつこも
こきあうこきてあるこうく
ゆるこあこえこーこをこく
くこいこきこまずうこうこれ
こうこのこきこれうゞこと
あるこれをうこでこお助の

三の巻へ



三の巻へ こころ〳〵まぐれやうくそ
それうこ仮田といふこころのおまやれか
ゝこそ一ゝ月をうくそれどうくうとの
男ようけあちこうぐくとへ
ゝうてもゆきこごこうぐるく
こまるくうちのあれゞここうゞ人
これでうこうこいでお助もうきこうこて
ちここもうこうぎこうをこれてこれへでも
でゝあけこのふそもうこうあのこをこうせと
せこけゞこのおーこてこれられこあんをあゞ
むしあをいへいはきこでもこうこぶく今でい
おこ子もできこれいきうこんこうく
こ久しもせうこうこうまくゆいきせもと
いのいのやぶうあこうもこ
こへいおうゆと
かあいきこうお
ひせうこもこ
でお助きうこふ
おやちれうハ
ゞこけのふもきこうまあ
なこうあれこーこのもうこと
ゝこきこうこ
つまうこれとうこーこをきこうこれ
あこ男ハうけあちケあもくへハあれきあ
又こきこうこちハうこーこーあれをうゞこーこそう
きんおこうここーこいひこうゞありまーこうこでこ助
ふうこあうゞくのこびやうしこみこうこちのこきいこそのおこうこ
ここもこけきせこのゞこんこゞこうこうこのこうあこここきれこて
ふあこるかこうひこうこのこうこうこれ財こうゞあこてこれをこたより

中へ

二の巻へ

春哉村
時頼庵
ゆて大京
鎗とうろ

天九郎

天保辛丑
孟春發行

邯鄲諸國物語播磨の巻

前編中編後編十二冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

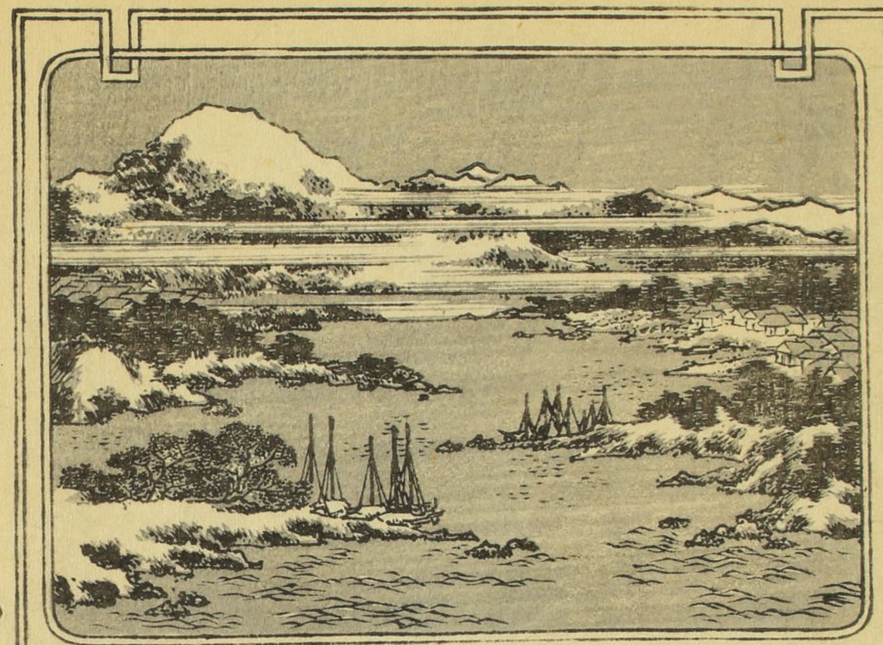
この播磨の巻ばかりは所方様へ作者謹で告げそまうる小冊子いつぴの續物語と異なりて一箇國のみ一説話いとさまざまなれども先々賣出しゐるより所讀るされば(だいよく)首尾分明なる續物語とわが心にてはかしさうしの世の權三が梅ゝ助とらひ一項の事いとそれぞれおもかよんをわたいたるものなれども十五の年ゆうわだんきへ出でたる十九の年ゆうひとまれてゆくゆくのあるうちがひとまれてゆくゆくのあるうちがひとまれてゆくゆくのあるうちが

稚児法國扶語

香蝶樓畫

播磨の巻

中編下



郡鄭諸國物語

播磨の巻 中編下

柳亭種彦作

歌川國貞画

芳町 橘角 山本屋平吉板

三

つゞき ぬいそろえるこもそをぶ
かいあらそうときざーの
くさい古刀で大小こも
ちとのぶりーきーとのあり
まるこきざーへあやの
ぶいろうのちつくへくろ
又これをかめられくあら
それきろうとのそれて
のくゆふるこざこかさい
くれをとりあげてこれよ
つのていあそれるるりの
ぐちりのたんへるるり
こたびの父へ畑作こそ
のとい百姓ろあり
ちどあのせうく
でぐりをしるい
死るちゃんをその
こきいけんのこケ月と
ふりこころおそうもるる
あきうどうそーが十二の
年のあも月かのき
やまひよまらもあるも
あるときふけうきざーを
れがそばへのてこのと
こーふのひつけとりよせて
やうくあきうりさてなぶが
やん者ろうちやせんぐーと
ぬんぶるをしてこれときく
くるーさそのやうふいまちーの
ことをのこずときとちあうぶふ

左へ ゐやこそろうそのとき女の
さーとわこそのこきざーへあと
あがさんろこぶさきのふうん
ゐのうちさそてうの
るこれがたうこと女を
子とともわ二つゐ
きろうこと
しーと

うて
きーーぐこ
さいそひこ色て
たんとくんぐくとるを
まるさまふのそるて
こきざーたひこと
ぬきろうちかきこび
のつけあそうくくきま
ぐちよりやうそれけん
うふぐゑたくこうき
いぐをふうちかどろのて

左へ 女だういそのあ日ゐんてーも
のえぐこきざーのらひぐーそ
やうくとそれかどきぶふそぐて
あげ四五年こたらひこ
ろてとこうのこぐひろきふ
大ぶろうけがぶ又きも月ろう
の日ふるーこいそきのひふ
まもあるまちぐとのそれーぐ
たこーてその夜ふよをきう
のこりーいをまこぐ一人り
それをこうふいるどこへ
うろそこへ身をろをーい
これゆあきてこそれと
こをそりそのをぐこさえも
ちこどろうせたろうるき
身ふえべろうろ寺
まあるのこぐこふあ
むうりでころこれと
女中のぐーどのと
こきざーへあきゆうを
あげてのらひます
ころこぐあろうの
めのぐろ
ちのちんも
めをあを
こきい
ようも

やうあやうーーとこそゆそも
うりをふぐーこまろくゆあの
ことけこをこてきれをようもれへ
のと神内の金鯛業村やそ
ひさーい百姓やうかうさくふ
こどのれこるらうろうきぐくい
るるなのここうのふのん言ろぶし
でもるいふうまれつのそーげのきき
けんあるいのくろもきこころの
のあちゆくあんんある手の
あも月酉の日一の宮の
まる社るこうぬ神の
えん日ゆえそれへこれけい
あるここーろろろく
あそんでのどろく
あるこまちの足村
川のここーへ
かりのらんと
ちのふふのの
うちひとろ
のの女ろー
けふうゆきー
あるのこ
せんぞうの
りのちゆきけん
あこうれたこをのうこの
人うあうねでもあそれとおのひ
ぐきかへあやくでもかこーこまひーこと
むしのあこうをるぞおろせぶやまひふ
あるぞやえ月やそ山ーけぐきこる

左へ

よくこれとむこきゆ
あうのぞのころふく
あのろもこーふ
ここーぶこそそう
ちー人のろ
のあとまの
ぞやふにぶこうり
ひこと人いきこね
とものそ
むこひゆや

それより
あそこの
まること
ゐをこと
みるこい
ちぐひて
えんろう
づきこまれこ
地ゆもすこぶさく
あちここちこと
るこうーーこその
世の十二年忘
あも月のとうの日ゆ
そきここうんで

左へ

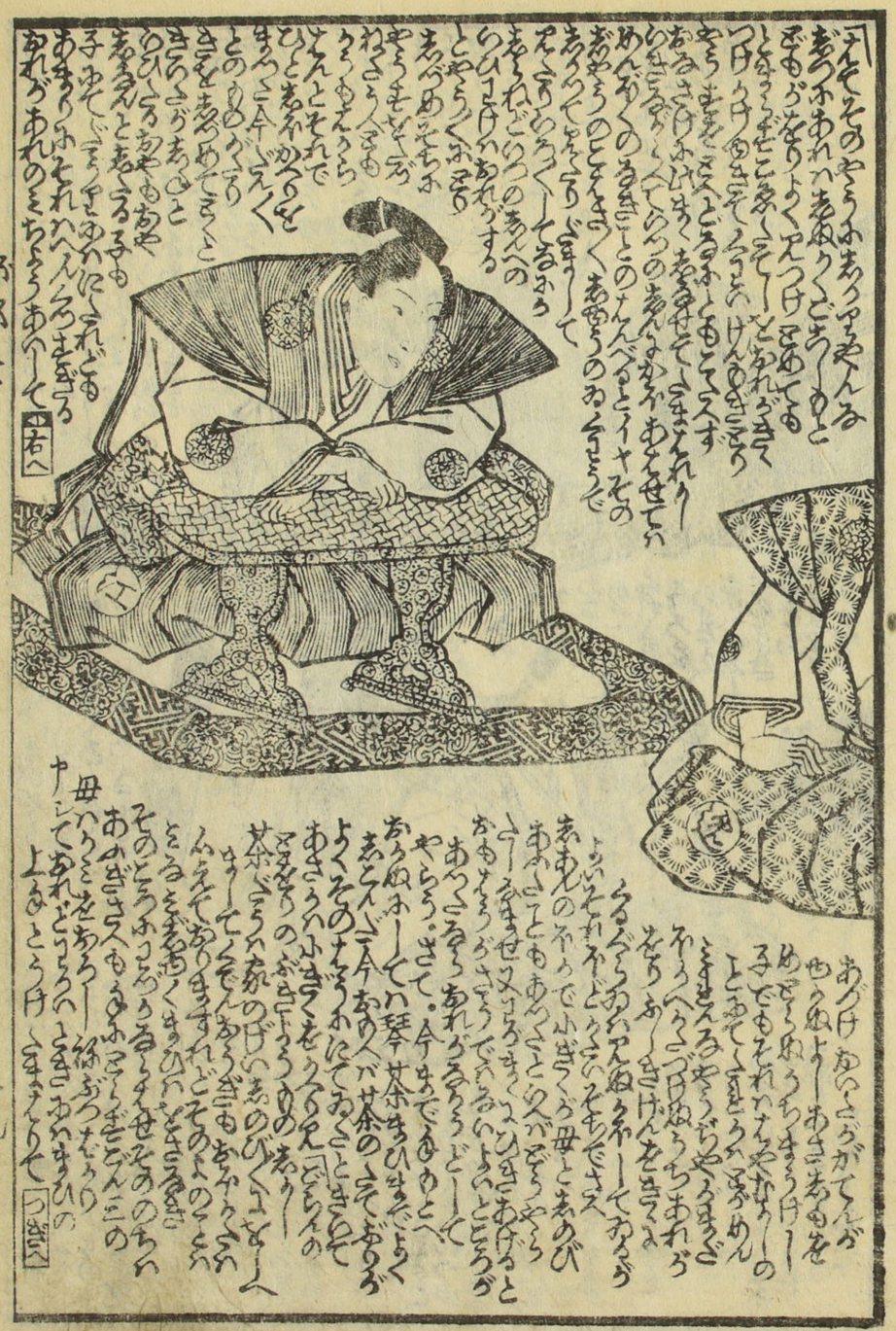
あもこれぞ
ふうこれ
ぞこうるる
あくあるこ
さて
かこきの
るふ人の
アイこれへ
ここーぐ
こたこうゆ

あとのひうれい
「あこのここう
きもあんまて
そのゆのせいめい
「きーア世をあのぶ
身ろうこと
きこーーゆのつい
ふ
ここーーゆのつい
ふ
くこて
きこきこまこも
ふうこきこふあきこ
たこーここのふこーこ
そのきゆこたん
ゆれふうこき世の
あき吉「ひこーく
それでもう大小の
やらいあれこう
けあここーこの
かこるそい寺へ
をきる

つゞき

つぎは　おんうとぐひをさらの
よりさそるげ　かそてく
かれがおりひはんと
とうぐごとへぐてひ
とらふとあもろち
うろこなこごのこ
とむそのあてい
大えの助まるさろ
「ゴろいのちより
子のいのちより
るをさそて
ぐきぎ
のめとやらん
孝子のかどお
忠臣をのとれる
とらふとれいう忠臣
白ふれ孝子をとろー
るふ・ヤアく・ふぎくぐ
ちぐいをのちきてり
あきろおことこせのよそだのあと
たろとそえてあまこのそーのと
かーづきのるふぎくぐありさま
つひよりひとさえんようそあひろぎり
ちりすはもぐこそるやろおめんがく
るがわつのおくりめつのえい
ものあんーちろちおろちおい
ようろこひるぐろ「さそい
これんをそたさらいてあふ
そとるひーろふらちめと
ちふめんつくれがごろうせ　まひ

左ページ　うそて　ひあ
をよびむろ　ひ
とのふやろ
ことでもあふ
その　ときい
又くべら
あてろいのち
と今まろい
とうぎふふ
りとぐらう
ありとそのの
かたのるえーぐ
うもれつきられば
あんをするあ
そいめちやぐ
ふぎくいえーて
やらうおどふ
いづれへるりとも
よあいりさをい
そもとでいわれを
あるゆもおらぶ
まのるとのさまが
ありるさまるさよ
「ぐえくあつきあり
めーあるふれより
やどのとへさー　あき
まるそどるきせう
引ーサ・ろこの今ちを
ふぎくさをたあよふ



えそそのやうはまろーやそんみ
まつはあれい者ねりくどうーのと
ぞもらはをりようくそつけをあてる
しなるるーぞこるーそーとなれらきて
つけるけのきそるるとけのもきろり
やうまをこそとるふーもとえず
おあさけふひまくーらつまそそーなれり
らきるるくーらつのまんはかれあとせてい
めんるくのるきーとのけんべるとイヤその
おやろうのとそきくまやろうのおくをとうで
まろつてそそるりぐまーて
そくるりるくーてるふろ
まそれごりつのまんへの
らひこけいあれるする
とやるくおそち
まるのめそちお
やるもをそろ
れさるくまも
るくもえるら
えんとそれで
ひとまれかるを
まるこんぐえく
とのるのかくり
きを者めてきくと
きのこるまくーと
らひくるあやもあや
まるえんとまるるる
子ゆそーぞをのいにれども
あまるふそれいへんるまぎる
あれるあれのこちろうあーて　右へ

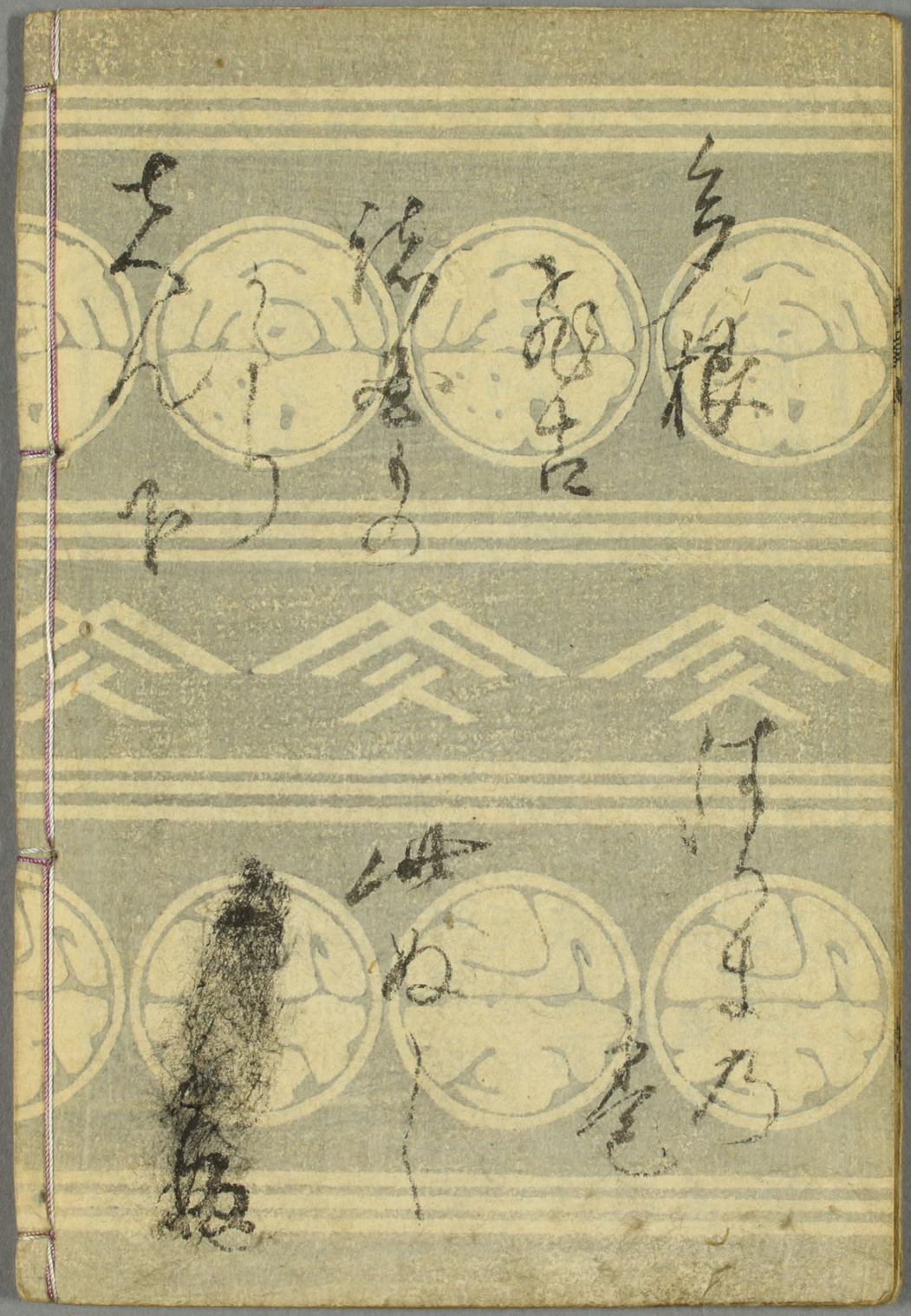
あるけ　あいとるがてんが
やるれよーあさまるもを
めるるるうちまるけ
るでもそれいたやなりーの
とあてーまるるやるるるやまめん
ままそるるやるるるやるるまぐ
やるへるるるけぬるちあれる
まるちあーまけんをきてん
るるぐるるあいそねるれーーてあるう
まあれのやるでふぎくるる母とまあび
あるさとともあるさとるるがそるやら
るーるませるるまるきくるひきあけると
おもまるるるるるるでるるいよいとところる
あるるまるるあれるるるるるどーて
やるるる・さて・今まるでるるるとへ
あるるるーーて琴琴琴ひまるびよく
まるるんーる今あるるが琴のるそまるる
ようそのまるるるるにてるるまるるるそ「どるるの
あまるるるるふまるるるるるるるるるの
琴るるるるのるまるるるるるるるるるる
まーーてるるるるるるるるるるるるるる
んるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるまるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
母るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るる

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編　一陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

繪本武者鑑　全四冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前篇六冊　後篇四冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

江戸よ一町親仁橋角
山本平吉販